

「チャレキッズ」プロジェクトについて



チャレキッズ ~ 障がいのある子どもたちの夢を叶えるプロジェクト

チャレキッズプロジェクト実行委員会

◆福岡市教育委員会 発達教育センター

◇NPO 法人まる

◇合同会社 ワークオフィス絆結

(1) 共働のきっかけ・必要性

●課題解決のための事業手法として、なぜNPOと市との「共働」が必要なのか。

障がいの者の生き活きとした生活に必要な「自立」。その根幹となる「就労」の機会を多く生み出す為に行う本事業は、障がい児童を対象としたキャリア教育の機会創出と、彼らを取り巻く環境への啓発活動を主としています。

この活動を NPO だけでなく、行政（福岡市教育委員会）と共働で行う理由、メリットは、行政所管の学校へ一斉に情報を伝達できる、参加を促す事が出来る、という点と、取り組みを一過性のイベントとしてではなく、必要なキャリア教育として、学校教育に浸透させていきたいと考えるからです。

また、共働する発達教育センターでは、「夢ふくおかネットワーク事業」という、就労対象年齢の生徒と企業を繋げる活動も行っています。そこに参加する企業にも、これから就労を目指す児童生徒にも、本事業に参加して頂く事で、より多くの実りが生まれると思ひ、事業を共働で行う運びとなりました。

● NPOはなぜこの事業を提案したのか。

障がいのある人々の豊かな未来を創り出すために、まずは就労環境の改善が必要と考えた。現状のような、限定した作業だけでなく、個人の能力や特性を活かした仕事のマッチングを広げる機会を創り出す必要がある。

それは、「できないこと」のを訓練して「できること」にするのではなく、「できること」を自発的に伸ばすことで「もっとできること」にするという視点が重要と考えるからである。

その為には就学児童のキャリア教育の充実、拡大、さらには企業側も彼らと触れ合う機会を増やすなどの取り組みが必要と感じ、このプロジェクトを提案した。

●市担当課はなぜこの事業に取り組むことにしたのか。

発達教育センター事業として、特別支援学校高等部生徒の就労支援のため「夢ふくおかネットワーク」を立ち上げ、企業や関係機関、学校、保護者の連携を深め、卒業生の就労率向上につなげているところである。しかし、課題の一つとして高等部入学時に就労希望者が少ないという現状があった。そこで、小学校（小学部）の早期から「体験活動」等に取り組み、子どもたち自身が「夢」を抱き、保護者自身が就労への「可能性」を信じ、学校との連携を深めることができれば、高等部入学時の就労希望者数の向上につながると考え、この事業に取り組むこととした。

(2) 事業目的

障がい者の就労の促進と定着支援を目的とした、幼い段階からの障がいのある児童生徒のキャリア教育の機会を創出し、児童生徒たちの自発性を促し、夢を語れる場を設け、地域の企業、保護者などの社会との接点を構築します。また、彼らをサポートする保護者、教員、地域の企業、行政機関には、子ども達を受け入れるための知識と経験を磨く場を様々な角度から提供し、障がいのある児童生徒の自立と自己実現が可能な社会を築いていきます。

このような実践を通じて障がいのある児童生徒が成人となる頃に地域での役割を見だし、就労へと導けるような環境を作っていきます。

誰もが夢を抱き、豊かな人生を選択出来る、そんなユニバーサル都市福岡を実現して行きたいと考えています。

(3) 事業目標

本事業の目標は障がい者も夢を抱き、豊かな人生を選択出来る社会を実現することです。

その目標達成には障がい当事者とその周りの環境、双方にアプローチしていく必要があると考え事業を展開します。

◆障がい当事者⇒幼い頃からのキャリア教育（社会との接点）の創出

幼い段階から社会との接点を意識する機会を設け、自分が自発的に選択することで、喜びも大きくなり、必要とされる事で幸せを感じる、そんな機会を増やします。

その体験を得るべく、1、「お仕事体験ワークショップ」と2、「子ども達の“選択する力”を育むイベント」を行います。これらのイベントでは、障がい当事者の①「自発性の芽を育てる」ことと、②「選択出来る力を育む」ことを目標とします。

その成果をすぐに量る事は難しいですが、成功体験や失敗体験を通して得られた感情が彼らの次のアクションに繋がると考えています。

◆ 彼らを取り巻く環境へのアプローチ ⇒ 各種啓発セミナー

この取り組みの目標は、障がい当事者と一緒に働く、共生していく社会が社会全体に、企業活動に「メリットを生む」という事を知ってもらい、アクションを起こしてもらおう事です。

その為に1、「企業、教員、保護者向けのセミナー」を行います。このセミナーでは③「障がいに対する理解を広げる」事を目標とします。

これらの目標を達成する為に各事業を行います。

◆ 年間を通した事業目標

年間を通して、当事者とその周りの環境への事業を行い、当事者に対しては①「自発性の芽を育てる」ことと②「選択出来る力を育む」ことを目標とします。そして、周りの環境に対しては③「障がいに対する理解を広げる」事を目標とします。

● 事業のアウトプットと3年間のロードマップ

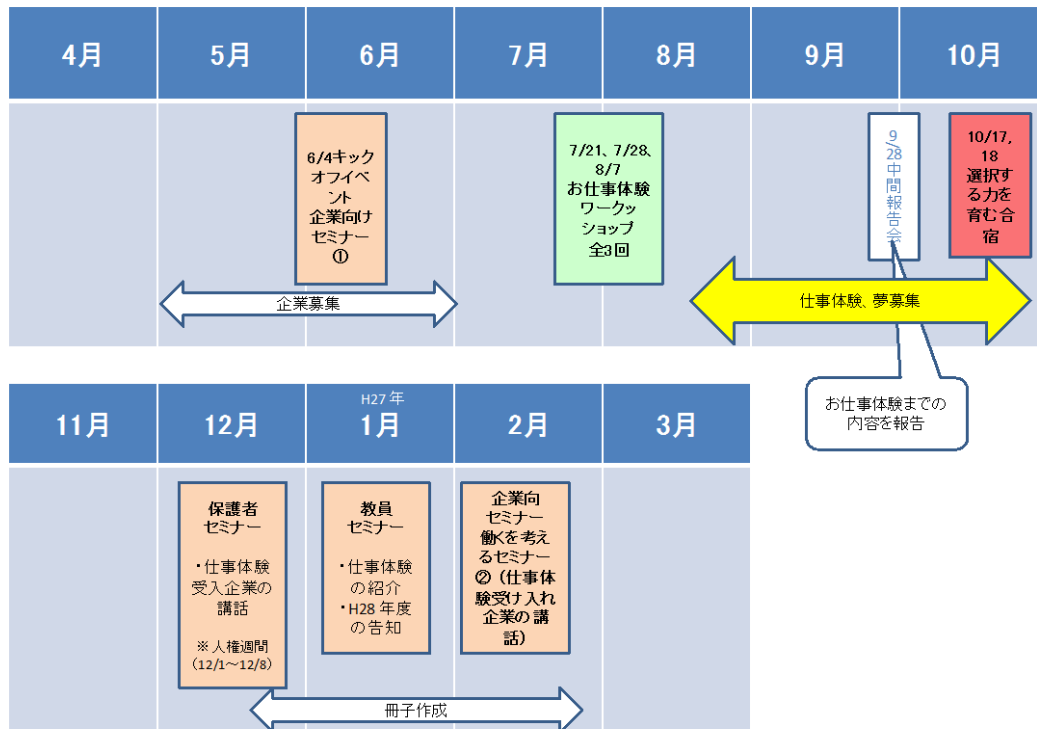
1年目にはこれらの年間の取り組みをまとめた冊子を発行。

2年目にはその冊子を、教育現場や各種セミナー事業の際に応用し、イベントに参加した当事者や企業の変化、反応を伝えて行きます。

3年目でも、その活動の和をさらに広げ、障がい者と共生していく社会のメリットを広く伝え、イベントへの参加者、賛同者、参加企業を増やし、障がい者雇用、定着の増加の礎として行きます。

(4) 事業内容

チャレキッズ 27年度 事業年間スケジュール



◆ 企業向けセミナー チャレキッズキックオフイベント

期日：6/4

会場：アジビホール

参加者100名

内容：障がい者雇用に関心のある企業の皆様にご参加いただき、障がい者雇用についての可能性、メリットを知って頂けるよう、大学教授（福岡大学人文学部 徳永豊教授）による共生社会についてのお話や、障がい者雇用を行っている企業2社（八仙閣総料理長 吉村高信氏 株式会社障がい者つくし更生会 専務取締役 那波 和夫氏）による事例報告、ワークショップによる意見の共有などを行いました。



◆ お仕事体験ワークショップ（マッチング編）

期日：7/21 実行委員とチャレキッズとの交流ワークショップ

場所：発達教育センター

参加人数：堤小学校特別支援学級生徒 8名

東福岡特別支援学校生徒 1名

内容：こどもたち（チャレキッズ）と実行委員メンバーとの交流で、子ども達の個性を知る為の交流会



期日：7/28 お仕事体験受け入れ企業とチャレキッズとの交流ワークショップ

場所：発達教育センター

参加人数：堤小学校特別支援学級生徒 8名

東福岡特別支援学校生徒 2名

受け入れ企業6社

内容：お仕事体験受け入れ企業のみなさんに、チャレキッズ（子ども達）の個性を知っていただく為の交流会



◆ チャレキッズのお仕事体験マッチングワークショップ

期日：8/7

場所：発達教育センター

参加人数：11名

受け入れ企業6社

内容：実際のお仕事体験の前に、子ども達に企業の仕事をしてもらい、そのプチ体験を行う事で、より興味のあるお仕事体験を自分で「選ぶ」体験をしてもらいました。



◆ お仕事体験ワークショップ（現場編）

8/21 餃子の黒兵衛

8/27 九州ウォール建材株式会社

9/12 日高農園

9/19 数寄家



【今年度の今後の予定】

◆ お仕事体験ワークショップ（現場編）

10/11 木花養魚苑

10/12 福岡市動物愛護センター

◆ チャレキッズ秋合宿

期日：10/17～10/18

場所：発達教育センター

参加人数：20人（各特別支援学校、支援学級より公募）

内容：1泊2日の予定で、アート作品を作ったり、自分たちで銭湯に入りに行ったり、食事を作ったりといった、「自発性の芽を育てる」「選択する力を育む」目的で構成します。

◆ セミナー

① 保護者向けセミナー 12月予定

② 教員向けセミナー 1月予定

③ 企業向けセミナー 2月予定

◆ リポート冊子発行

体験プロジェクトの成果を学校カリキュラムへフィードバックし、発展させて行きます。また、地域レベルでは、イベント参加者の協力のもと、障がい児本人達の未来の選択肢を増やし、多様な夢の実現の幅を広げて行きます。

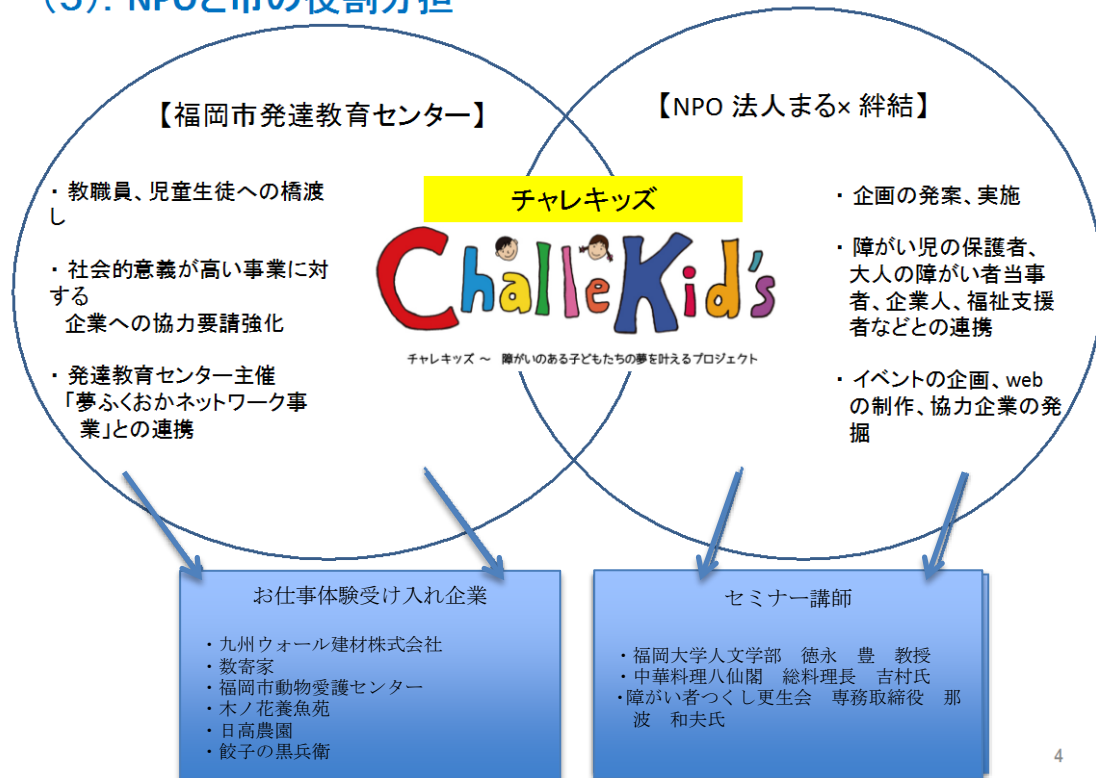
➡具体的には、体験プロジェクトを冊子にまとめ、教材として2年目以降、使用します。冊子は全校生徒1人1冊ずつ、持ち帰り、保護者とも共有出来るようにします。

(5) NPOと市の役割分担

- NPOと市の具体的な役割分担について

(6) 共働事業のメリット・成果

(5). NPOと市の役割分担



・最初の事業となったキックオフセミナーでは、双方のネットワークを活かし呼びかけたことで、満席100名のご出席をいただきました。民間団体だけでなく、行政とともに行うプロジェクトということで、多くの企業、関係各所にご興味を持ってご参加頂けた。

またその内容も自由な雰囲気で見解が交換され、行政のみで行うより、幅広い業種の企業が参加し、より自由闊達な雰囲気での議論が醸成された。

(アンケート別途添付)

・続いてのお仕事体験ワークショップでは、行政のネットワークを活かして、モデル校との連携、教職員との連携、保護者への協力などがスムーズに行えた。

また、時間を掛けて、遊び感覚も交えたワークショップはNPOのアイデアで生まれ、共働事業という試験的な取り組みを容認する環境でこそ実現出来たものだと感じた。

(保護者からのアンケート添付)

●実施事業の効果

まだ効果が目に見える段階ではないが、お仕事体験ワークショップで、当事者と保護者と企業がお互いに歩み寄り、「個人の特性」を理解した上で、良質な経験の機会を創り出そうと向かっている姿に、大きな一歩を感じた。

(7) 共働するうえで苦労した点・工夫した点

当初、お仕事体験のマッチングは、受け入れ企業を募り、そこに体験を希望する児童をマッチングする、という1ステップだったが、より「個々の特性を理解した上で」という所に重きをおいた為、マッチングのためのステップを3回設けワークショップを展開。その分、手間や拘束日数が増え、行政側、NPO双方に負担が増えた。

しかし、お互いが増えた作業の必要性を十分理解できたため、何が必要で何が不要かを吟味して、スケジュールや内容を調整、手間ひまを分担することで克服した。

個々の特性に寄り添う、という姿勢に転換したのは、最初のキックオフイベントで登壇した実例企業の話の影響を受けており、事業を展開していく上で得た情報、ネットワークが事業に良い効果を与えた事例となった。

(8) 担当者の声・市民の声

【提案団体（NPO側）】

当初、子ども達から夢を集めてその夢にマッチングさせる事を想定していたが、時間的な制約と本人たちの「夢」に対する気持ちがまだ未発達出会った事で方向性を転換した。

また、保護者自身も夢を抱かせて上げられる気持ちになっていない、というギャップも発見した。

その中で、大切にしたい事は、「障がい者個々の特性に寄り添う」という姿勢だ。

入念なコミュニケーションを重ねる事で、障がいの特性ではなく個々の特性を把握した上でのお仕事体験マッチングが出来た事、それに企業の方も加わって気付いていただけた事は大きな収穫だったと感じている。

【提案団体（行政側）】

NPO側からの提案で、「お仕事体験」に向けて子どもたちと企業とをマッチングさせていくために、子どもたちには「体験したい仕事を選択する時間」を、企業には「障害のある子どもへの理解を深める時間」を設定したいとあった。仕事紹介だけでなくレクレーション等を通して人と人との交流を深めながら、双方向で理解しあって体験したい仕事のマッチングにつなげていけたことは、今後、障がいがある児童のキャリア教育を考える上で、たいへん重要な実践事例であったと思えた。

【セミナー参加企業の声】

➡アンケートより抜粋

- ・それぞれの立場からコメントいただきましたが、共通していたのは「できない」ではなく「出来る事、したいこと」に目を向ける、という事。考えを改める事が出来ました。
- ・職業と仕事の関係を「できること」「したい事」と行った現場と理念の部分を感じる事が出来ました。
- ・どのお話でも「個を見る」という内容だったと思います。
- ・障がいに目を向けるのではなく、その人個人を見る事。共感を覚えました。
- ・希望を持ってました。有り難うございました。

【ワークショップ参加の保護者の声】

➡アンケートより抜粋

- ・今後も参加したいです。子ども達には、早くからこのような体験を沢山してほしいです。
- ・企業の方が来られて触れられるのが良かったです。
- ・犬は苦手だと思っていたのですが、お散歩など自分から手を挙げていて驚きました。
- ・馴れれば動物大丈夫だったみたいで驚きました。
- ・作る事や触れる事で仕事の面白さ等が子どもに伝わるのは嬉しい事です。小さいうちから体験出来るのは素晴らしいと思います。

